

2024年度フィールドスタディ・地域活性化論実施報告(ホームページ掲載)

科目名	フィールドスタディ B	教員名	中澤高志
実習先	長野県上田市		
実習期間	2025年2月3日(月)~4日(火)		
テーマ	自らなりわいを創る		

目的(実習のねらい):

「田舎暮らしは魅力的だが、仕事はどうする?」と考えるとき、どうしても「雇われて働く」という選択肢にとらわれがちである。しかし、地方都市でも、雇われるのではなく、自らなりわいを創り出すことで、日々自分らしく暮らしている人々が現れ始めている。今回のフィールドスタディでは、行政の取り組みに加え、創業者の方々へのインタビュー調査を試み、フィールドワークの面白さを味わってもらうことを目的とする。創業者たちのバイタリティ溢れる生きざまに接することで、オルタナティブな生活の可能性について考えてみたい。

実習報告:

2月3日(月)

上田駅の改札口に集合、城下町らしいクランクのある道を通って上田市役所に向かう。上田市商工観光部の方に、上田市の産業や創業支援の概要などについて説明してもらう。



各自昼食、学生は結構名の知れた蕎麦屋にいった模様。

午後からは、趣のある上田電鉄に乗り、インターネット古本販売の大手、バリューブックスの上田原倉庫に向かう。まずは近くの公民館でバリューブックスのビジネスや取り組みを説明してもらい、続いて倉庫を見学。バリューブックスには毎日大量の古本が届く。それをどうやって値付けし、仕分け、発送するのか?現場を見せてもらうと、少し仕組みがわかってくる。



2月4日（火）

全体を3グループに分け、午前1件、午後1件、インタビュー調査を実施した。インタビューの相手は、いずれも学生が選び、アポイントを取った。

インタビュー後は、上田電鉄で別所温泉に移動し、温泉施設『あいそめの湯』の交流室でまとめの会を開催した。インタビューやフィールドスタディの感想をみんなとシェアする。温泉で汗を流して東京へ。



成果：

今年はアポ取りが結構大変で、電話営業みたいになってしまったが、これもいい経験だろう。地方都市でなりわい作りをしている人たちと触れることで、大企業に入ってサラリーマン生活をするのとは違う生き方があることが分かったと思う。別にそういう道に進む必要はないが、追い詰められてしまったと感じたときにこそ、オルタナティブな生き方を思い出してほしい。

以上

中澤 高志 専任教授